

第1回河南町まちづくり会議 議事録

日 時：令和元年 12 月 20 日（金）午後 1 時～3 時

場 所：河南町役場 4 階 大会議室南

出席者：委員）浅岡委員、佐々木委員、山口委員、村元委員、松井嘉昭委員、金川委員、澤委員、松久委員、辻井委員、吉田委員、清水委員、山中委員、浅野委員、岡本委員、上條委員、松田豊彦委員、松田和美委員、松井勝彦委員、井上委員、荻野委員、松本委員、森田委員 計 22 名

事務局）地方創生特命理事 玉川理事

総合政策部 辻本部長、秘書企画課 池添課長、大宅

1. 開会

事務局： それでは定刻となりましたので、ただいまから「第1回河南町まちづくり会議」を開会いたします。この河南町まちづくり会議は、河南町附属機関設置条例及び河南町まちづくり会議規則に基づき、設置させていただいております。河南町議会、産業関係の代表者、関係行政機関の職員、教育機関の代表者、金融機関の代表者、労働関係の代表者、士業関係の代表者、住民で組織する団体の代表者、公募委員の方々および町職員の合計 25 名の委員構成となっております。本日、委員定数 25 名のうち過半数の 21 名の委員にご参加いただき、会議は成立となっておりますことをご報告いたします。

また、本日の会議は、河南町審議会等の傍聴に関する取扱要領により、傍聴を許可しております。

また、本日の会議に際しまして、写真・録音等を記録のためにさせていただきますので、ご了承の方をよろしくお願いいたします。

私、この会議の事務局を預かります、池添でございます。会長が選出されるまでの間、進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進行させていただきますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

それでは、次第 2、開会にあたりまして、武田町長よりごあいさつ申し上げます。

2. 町長あいさつ

武田町長： 皆さま、こんにちは。紹介頂きました、武田でございます。ごあいさつを申し上げます。

「河南町まちづくり会議」と称しまして、皆さまに委員をお願いいたしまし

た。快くお引き受けいただいたばかりか、今日、早速、この会議に大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、ありがとうございます。どうぞよろしく願い申し上げます。

おそらく、スタートはこの本だったように思っています。これは『中央公論』で2014年6月、ですから7年前。センセーショナルなタイトルの「消滅する市町村523全リスト」。この中では896の自治体は、将来、消滅するという話で、本町も六百何番だったと思いますが、入っておりました。将来人口を見ていると、特に若年女性と言われている層、子どもを産んでもらえる女性が減る。ということは、もう子どもが産まれない。それは、イコール人口が減っていく。それで将来は消滅するという理屈で自治体がリストアップされました。

人口減というのは、何年か忘れましたが、ひのえうまの出生率が一番低くなるよりも、もっと出生率が低くなった事件がありまして、そこから国は日本の人口を置いておけないという議論が高まっております。このレポートは、増田先生のレポートですが、これと相まって、地方創生というテーマを国が挙げて、われわれ地方も巻き込んでの大きな議論になりました。それまで各地方は総合計画を持っておりまして、おおむね10年スパンで、何をするか、基本構想から具体のところまで、あるいは実施計画にまで落とし込んだサイクルでもってやってまいりまして、河南町も10年ごとに更新いたしまして、第四次総合計画の計画期間中でありました。その計画は、令和2年度で終了します。

もう一つは、国を挙げてのキャンペーンで、地方創生の1期のキャンペーンがありました。それは、総合戦略を立てなさい。人口フレームを置いて、それに向かつての総合戦略を各自治体を立てなさい。おおむね5年ですよ、というものでありました。それはわれわれもつくりまして、令和元年度に終了いたします。今、そういう2つの大きな計画が終了する時期になっていまして、国は今年度、この年末には上がると思いますが、新たな地方創生の2期のビジョンを立ち上げる予定になっています。それに呼応して本町も総合戦略を見直して、今、申し上げました、河南町の新しいまちづくり計画を策定するために、まちづくり会議を起こさせていただいたわけでありまして。

とにかく、近隣の自治体はもとより、全国的に競争の時代になっています。今まで自治体は連合体でありまして、隣がしたらうちもやろうか。全ての事業が当初予算で組まれますものですから、1年間遅れて、翌年度に設計すれば2年遅れで、進んだ時代に付いていけた。もちろん、財政的な問題はありますけれども。でも、これからは、もうすでにそういうことになっていますけれども、自治体間競争になりまして、隣を見て動くのではなくて、まず自分からやることのない限りは置いてけぼりを食う。そして、住民の皆さんからは満足を得られないので、支持をしない。やがて、マイナスのスパイラルで行き当たってし

まうことが悪い例でございますので、本町はそうならないように、しっかり計画を立てて、この職員 140 人あまり、それから各種団体、いろいろお世話になっている団体の皆さまと合わせて、そして住民の皆さんと協働の下に新しい河南町、次の河南町、子どもたちに引き継いでいけるような河南町をつくっていかねばいけないということで、今日は各界の皆さまにお集まりいただきまして、忌憚のないご意見を頂いて、われわれの道しるべを生み出していただく会議をスタートさせていただくこととなりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。冒頭のあいさつといたします。ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

3. 委員委嘱

事務局： それでは、次第の3「委員委嘱」です。委嘱状につきましては、本来、皆さまに手渡しさせていただくところではございますが、時間の都合上、あらかじめ席に置かせていただいておりますので、ご了承の程、よろしくお願いいたします。委員の任期につきましては、令和3年12月19日までの2年間でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、本日、欠席の委員の方につきましては、後日、改めまして、本日の会議結果と共にお渡しさせていただきます。

4. 委員紹介、会長・副会長の選出

事務局： それでは、次第4「委員紹介、会長・副会長の選出」です。まず、委員の皆さま方に自己紹介をお願いいたします。

(各委員より自己紹介とあいさつ)

事務局： それでは、配布しております「河南町まちづくり会議規則」をご覧ください。会議の運営について必要な事項は、この規則で定めております。裏面の第4条第1項で「まちづくり会議に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。」と規定しております。また、第5条第1項で「まちづくり会議の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。」となっております。会長・副会長を選出する必要がございますが、まず会長の互選につきましていかがいたしましょうか。

佐々木委員： このような会議のときに、いつも仕切るのがうまいので、教育関係者の方に会長になっていただいて、まちづくり、先ほども町長が言われたように、これから20代、30代、40代の女性が重要だということで、副委員長に上條加奈さんを推薦します。

村元委員： まちづくり関係は、以前もそうだったんですけれども、芸大から来ていただいている松久教授にお願いしたら、いかがかなと思う。

事務局： よろしいですか。ただいま、会長・副会長と両方言っていたいて、副会長はこれの次にも出ますので、まず会長の方からさせていただきます。会長につきましては、松久委員をとというご意見がございましたが、皆さま、いかがでしょうか。

(異議なし)

事務局： ご異議はございませんでしょうか。それでは、会長につきましては、大阪芸術大学の松久委員と決まりました。

それでは、先ほども意見を頂きましたが、副委員長長の互選につきまして、上條加奈さんというご意見ですね。ほかに意見があるか、まず聞かせていただくかと思えます。

佐々木委員： 先ほど「会長でどうですか」で「異議なし」で来たんですよ。今、聞いてください。

村元委員： 私、意見があります。これはまちづくりのことで、住民に関わってくることでございます。だから、区長会の代表でおられる山中さんをお願いしたいと思います。

事務局： ただいま、お二方のご推薦がございました。ほかには、ご推薦はございますでしょうか。それでは、お二方おられますが、まず、どのように決めたら良いかというのはございますか。

佐々木委員： 挙手で。

事務局： 挙手でよろしいでしょうか。

それでは、順序立てて行かせてもらいます。最初に、ご本人様の確認をさせていただこうと思うのですが、よろしいですか。ご本人様のご意見もあろうと思えますので、上條委員、いかがですか。ご推薦が、委員の方からございましたが。

佐々木委員： 会長の際には、なぜ、ご本人の確認をしなかったのですか？

事務局： お一方だけだったからです。

佐々木委員： 関係ないです。断られるかもしれなかったですよ。

事務局： お一方だけだったので「お願いできますか」という。今、お二方いるので、まず、ご本人様がどうかを確認するべきというのがありました。いかがでしょうか、上條委員。

上條委員： ご推薦、ありがとうございます。ただ、このまちづくり会議について、私は何をしているのか全く知らずに今回の会議に出席させていただいています。

PTA 連絡協議会の代表として来ているんですが、任期としては今年度で私

は会長職を終わってしまいますので、次の連絡協議会の役員の方が私の後任として席に着かれます。ですので、私がこの2年あまりを出席するわけではないです。だから、副会長として推薦していただいたんですが、私がずっと出席するのはどうなのかなど、今、思っています。私自身は、PTA に所属していますが、連絡協議会としては出れませんので、ちょっと外れているのかと思っています。

事務局： ありがとうございます。山中委員、いかがでしょうか。

山中委員： 私は結構です。

事務局： よろしいでしょうか。それでは、今、お二方のご意見を賜りました。それを踏まえまして、挙手にてご確認をさせていただきたいと思います。

村元委員： 2年間やってもらわないといけないですよね。だから、区長会の会長の山中さんにしたらいかがですか。

佐々木委員： 山中さんは、区長会を2年間やりますか。

山中委員： 私の任期は来年いっぱいあります。

佐々木委員： 2年間ではないんですね。では、人が替わった時点で、また互選という形にされたらどうですか。

事務局： 今、佐々木委員から、任期中に替わられるということもあるので、替わられたときにはまた再任をしてというご意見もございます。

山口委員： 質問いいですか。

事務局： どうぞ。

山口委員： この文章の中に、会長は何をやり、副会長は何をやりというのが一切ないのですが、どういう仕事になりますか。

事務局： まず、会長につきましては、河南町まちづくり会議の会長としまして、その会議の招集、そして議長を務めいただくこととなります。そして、副会長につきましては、会長に何かしら事故等があり、会長が欠けた場合に、その職の代理という形になります。以上の説明でよろしいでしょうか。

それでは、挙手にて、皆さまの決を採りたいと思います。副会長につきましては、上條委員がいいと思われる方は挙手をお願いいたします。3票。それでは、山中委員がいいと思われる方は挙手をお願いいたします。ありがとうございます。それでは、挙手によりまして、副会長には山中委員をお願いしたいと思います。皆さま、よろしく願いいたします。

それでは、まず、松久会長様から就任のごあいさつ、よろしく願いします。

松久会長： 今、ご紹介にあずかりまして、会長の役を承りました、松久です。どうぞよろしく願いします。

私は芸大に勤めていますので、毎日、河南町に来ているわけですがけれども、私の知る限り、河南町はいいまちだと思います。都心からそれほど離れてない

し、自然とか歴史も豊かで、そういう意味ではすごくいいまちだと思うのですが、時代の変化というのか、今、非常に大きな変化が起きています。産業構造ががらりと変わってきて、商業のあり方も変わってきて、農業あり方も6次産業化していますし、あらゆるものがIT化という形でどんどん変わってきている。人口は減り、高齢化、少子化、こういう中であって、なんとしても生き残っていかなければいけない。「持続可能」というキャッチフレーズで、とにかくこの美しい河南町のまちを後世に継いでいかなければいけない、そういう気持ちでおります。委員の皆さまには、ぜひとも活発に議論をしていただき、これからのまちづくりに力を貸していただきたいと思います。

簡単ですが、これで私のあいさつにしたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

事務局： ありがとうございます。続きまして、副会長に選任されました、山中副会長から就任のごあいさつを頂きます。

山中副会長： 山中です。今、会長のごあいさつの中にもありましたように、会長に協力して、より良いまちづくりを検討していきたいと思いますので、どうぞご協力の程、よろしくをお願いします。

事務局： ありがとうございます。

5. 諮問

事務局： それでは、次第の5「諮問」に移りたいと思います。町長からまちづくり会議に諮問させていただきます。

(町長が諮問書を読み上げ、会長に諮問書を手渡す)

事務局： それでは、松久会長は前の席にお移りいただきまして、武田町長についてはここで退出させていただきます。

ここからの議事進行につきましては、会議規則第5条第1項の規定によりまして、松久会長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

6. 事務局説明

松久会長： それでは、本日の資料について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料を説明)

7. 討議

松久会長： はい、ありがとうございます。事務局の説明が終わりました。なにぶん、過

去5年間の総括であり、さまざまな論点、それから問題点を指摘されたと思います。本日の審議事項につきまして、ご質問・ご意見のある方はネームプレートを立てていただき、私が指名しますので、発言をお願いしたいと思います。佐々木委員、どうぞ。

佐々木委員： すみません、疑問点なのですが、資料3の7ページで婚活イベントの開催に関して、5年間の経過が0、79、49、0、0で目標は100となっているんですが、この5年間のイベント開催の流れと実績はどのようなものであったのか、詳細をご説明ください。

事務局： ただいま、婚活事業の実績についてご質問いただいたのですが、もともと婚活イベントは河南町だけというよりも、広域的に行うことで効果が出るだろうということで、富田林の青年会議所さんが南河内の1市2町1村を対象に実施しているイベントに、河南町も後援ということで河南町の方も参加していただいていた。ただ、当該イベントが平成29年度以降、台風とかで連続して中止になったりして、イベントが行われていない一方で、河南町単独で婚活イベントを成立させるのが、人数の関係で難しいという状況でございました。

松久会長： ほかにいかがでしょうか。金川委員どうぞ。

金川委員： 失礼いたします。検証結果の説明、本当にご丁寧に、ありがとうございます。よく分かりました。何度も出てきた「KPI」という指数なんですけれども、これは5年間にわたって書いてあるのですが、一番初めの年に制定されているものなのでしょうか。指数か何か、ものすごくすきっと。例えば、先ほど、おっしゃった、今、7ページを見ているのですが、婚活イベントが100ですよ。ものすごく数字がきれい。でも、その上の知る指数は69とか、68とか、ものすごく細かい数字とすきっとした数字とあるので、KPIの設定したときの根拠があれば教えていただきたいのですが。

事務局： お答えいたします。KPIについてですが、平成28年3月に、この計画を議論いただくにあたって、27年度の数字とか26年度の数字を発射台としてKPIを設定しております。中に具体的な「68」という数字があれば「100」という数字があるのかということにつきましては、例えば「婚姻届出件数」というのは発射台の数字が具体的に62とあったので、1.1倍を目指そうとか、1.2倍を目指そうとか、1.5倍を目指そうというので、割と細かい数字が出る一方で、婚活イベントみたいに、これから新しいことをやってみようというものは、なかなか発射台となる、参考となる数字がない中で、当時の担当の者に確認すると、慣れない中でKPIなり水準っていうのは、事務局から提案したり、ご意見を頂いて決めていったというふうに聞いております。

村元委員： 今、河南町まちづくり会議の第1回目ということなんですけれども。第四次総合計画が、令和3年3月に終わりだと。その後、総合計画がなくなって、河

南町まちづくり戦略という形で来るんですか。マスタープランの政策にあたってのことだと思うんですけども、その点、ちょっと理解しにくい点があるので、ちょっと説明していただけたらと思います。

事務局： すみません、まず、もともと第四次総合計画とまちづくり戦略は、スタートの契機はそれぞれ異なるのですが、両方ともまちの中長期な「こういうふうにしていきましょう」とか「こういうふうな施策をやっていきましょう」という体系を示すものなので、2本ともずっとあり続ける必要はないのかな、と事務局としては考えております。あとは、都市マスとの関係については、まちの最上位の計画があって、それを踏まえて、都市マスなり、ほかのいろいろな計画をつくるという構成になっています。今回、皆さまにご審議お願いしました、まちづくりの新しい計画、名前はこれからですけども、この計画を、今後の河南町の最上位の計画として位置付けさせていただいて、今、ご指摘のあった都市計画マスタープランも含めて、関連する計画が整合的になるように、検討させていただくという形に、今後はできればいいなと考えています。

松久会長： どうぞ。よろしいですか。

村元委員： 理解はできましたけれども、そうすると課題が変わっていくわけですね、会議が終わりまして。鑑が変わるということで、総合計画とは違うんですね。

事務局： そうです。

村元委員： 分かりました。

松久会長： どうぞ、ご自由にご意見をお願いします。山口委員、どうぞ。

山口委員： 議論するスタートは2022年ですか。

事務局： 資料5にスケジュールをお配りしております。事務局としては、8月末を目途に新しい計画が作れればと思っています。計画のスタート時期については、資料2にございますとおり、まちづくり戦略が来年の3月で終了してしまいますので、できれば8月末なら8月末に決まった計画を持って、令和2年の9月からスタートとか、そういうふうに、別に、年度がきれいに切れるところというよりも、新しい計画を答申いただいて、それを正式決定していただいた時点をもって新しい計画のスタート期間とできればと考えております。あとは、終期は、2020年度の途中から計画が始まりますので、5年とすると、2025年度末までが計画期間になるかと思えます。よろしいでしょうか？

山口委員： 2020年9月スタートの5年ということですね？

事務局： そうですね、8月に決まればということで。

山中副会長： すみません、人口ビジョンについてお聞きしたいのですが。今現在、河南町のまちづくり戦略では令和2年3月ですか。このときの、おそらく人口15,000台になるかなとは思いますが、まちづくり会議の目標として人口は幾らというふうに想定されているのですか？

事務局： お答えします。前回、河南町のまちづくり戦略をご議論いただくときに、ある程度、施策の内容はご議論いただいて、それと、当時、出ている足元までの数字と社会保障・人口問題研究所の推計をご覧いただきながら、このときは2060年に17,000人という数字を出していただきました。今回についても、もともと新しい人口ビジョンの計画についても、今後、5年間なり、もうちょっと中長期的な期間でこういう政策をやっていくという方向性を、ある程度、見据えて、足元までの、先ほど、ご説明いただいたような数字も見ながら、改めて2060年の目標人口をどう考えるかをご検討いただくということなのかなと思います。なので、今の段階で幾らぐらいですというのを事務局から申し上げるのは、ちょっと難しいとご理解いただければと思います。

山中委員： まちづくりをやっていく上で、河南町の人口はどうなっていくんだという。おそらく、5年計画であれば、1つの目途として、5年先に河南町の人口がどうなるのか、という数字ぐらいは出ると思います。それによって、今現状の16,000人弱から17,000にするのか、18,000にするのか、それによってまちづくりが違ってくると思います。ですから、河南町としては、人口をどうしていくんだというのは、1つの方向付けは出して欲しいと思います。

事務局： 今日のご用意できていないのですが、頂いたご指摘を踏まえて、今、5年後というふうにおっしゃいましたかね。5年も含めてどういう試算なりができるかどうかは、事務局でどこまで用意できるか検討させていただければと思います。

松久会長： 森田委員、どうぞ。

森田委員： 今、人口の話が出たんですが、事務局として、人口ビジョンと今回のまちづくり計画、それから国でいう総合戦略を、どういうふうな位置付けで構成してプランをつくろうと考えているのか。いわば人口はビジョンですから、ビジョンとしてどういうふうにするという考えなのか。それに基づいて、5年の計画というのは、5年間の人口をもって、こういう人口にするために何をするという計画をつくるのか。ではなくて、人口ビジョンを達成するために、5年間で土台をつくることをすることも含めて考えていくのか、その辺はちょっと明らかにしてもらいたい。

事務局： ただいま、ご質問があったのは、まずは、国の枠組みをご説明させていただいた方がいいと思います。人口減少が始まるということと、なんとかしようというので、国の方は「長期ビジョン」と呼んでいます、そちらで出生率を上げるなり、地方創生なりの取り組みを通じて、2060年度には、今は、確か、人口一億二千五百幾らだと思えますが、それを1億人ぐらいに止めて、2100年ぐらいには、いろいろ国がやる施策が効果を出すと9,000万ぐらいで落ち着くのではないかと、中長期的な見込みを立てた上で、具体的に、足元から取

り組んでいくことについては、5年ごとにいろいろ試行錯誤して見直していきましょう、そういう体系になっています。また、河南町も含めた各市町村でも、2060年までに人口をこういうふうにしましょうという考え方を出すと同時に、足元ではこうやっていこうという施策を総合戦略として出しています。

何で、そういう迂遠なことをやっているかという、特に国の場合は、人口の自然増減の傾向は、3年とか5年とか短期的なもので急激に変わったりはしないので、今、始めた施策が本当の意味で大きな効果を出すまでにはそれなりに時間がかかりますという、そういう前提があらうかと思います。なので、前回の河南町の人口ビジョン自体は、2060年に17,900人という数字を出して、当時、グラフ自体は載せているので、5年なり10年なりの数字はあると思います。その細かい数字に意味があるよりは、中長期的に当座の人口が減っていくにしても、どこかで反転させて17,000人にするために、こういう施策を5年間は取りあえずやりましょう。今回、集まっていたのは、この5年間の成果なり教訓なりを踏まえて、次の5年間はこうしていきましょう。仮に、状況がすごく大きく変わっているのであれば、いくら中長期的なビジョンといっても、目標を立てても、全体が大きく変わってしまえば最後の方向性も変えざるを得ないので、そこも合わせてどこかでご意見を頂こうと、そういうことを事務局としては考えております。

松久会長： どうぞ、山口委員。

山口委員： 人口問題というので、2060年日本の人口が8,674万人、これは下振れしているんですよね。人口問題だけは、出生率から計算したら速やかに出てくる数字なんです。各市町村の数字も、ほぼ出ているはずなんですよね。私自身も河内長野で、こういうところへ出たことがあるんですが、特に河南町の場合については、さらに下振れする可能性があるので、そういうことを前提に、甘い観測ではなくて、どうすればいいかということを考えていくのが大切だろうと思いますね。

松久会長： 人口問題について、今、中長期的とか、河南町はどういうふうに対応していたらいいかという問題は、すぐに答えが出る問題ではありませんけれども、なんとか増やしたいというのが本音なので、それに対する施策を皆さまで考えていただきたいと思います。

他にございませんでしょうか。井上委員、どうぞ。

井上委員： 施策が6つほどあるんですけども、多すぎませんか。

松久会長： 私も。同意見です。

井上委員： 8月の第6回の会議で終わりですよ。それまでに、この6つが解決できるかどうかですが、欲張っているのではないのでしょうか。

松久会長： という意見もあります。ほかの皆さま、これに対していかがでしょうか？こ

これは、過去5年間、もっと前からですね、ずっと議論されてきたことだと思います。ですから、全然議論してこなかった、初めての会ではないので、私はここは初めてですけれども、皆さまは、かなりこれについてご存じではないかと察します。それについて、何かご意見があったらどうぞ。澤委員。

澤委員： まず、ビジョンと実際のプランニングの絡め方がごっちゃになっているような気がするんです。まちづくりの場合、あるところで、旭川というところでは「君の椅子」プロジェクト、生まれた子どもたちにいすをプレゼントする。そうすることによって、その地域活性も図られるし、旭川は木工のまちですし、そういったものと合わせながら、同時にいすというのは思い出、記憶する装置だと。河南町を記憶させるようなテーマになっているのかなと。言葉だけで全部が10,000を超えてしまっているような気がするのです。私が思っている田舎わくわくのイメージと皆さん方はたぶん違うだろうし、都会はきらきらと。だけど、ここ河南町で都会のようなインフラをやったところで、私はどうしようもないんだろうなと思います。あるいは、近いからどうのこうの。それよりも、例えばガーデンシティであったり、あるいはガーデンビレッジであったり、田舎らしさをどうつくっていくのかとか、そういうビジョンをまずつくっておかないといけないんじゃないかなと。そのビジョンが、たぶん、この委員の皆さん方にはできてないと思います。それでご意見を出していても、なかなか出てこないなと。私は、河南町のオンリーワン、河南町だからこれができるみたいなことを、まず1つ打ち上げないといけないのではないかなと思っています。

芸大というところは、非常にいろいろな学科があります。芸大の学生を使うことも可能性が非常に高いと思います。あちこち飛んで申し訳ないんですが、カナダにブッチャート・ガーデンという、もともと採石場だったところでありまして、そこを10年以上かけて、今、カーデンシティといいますか、美しい、世界的に100万以上の人が観光に来ているという、そういったものが10年足らずでできあがるわけです。河南町でも、何かそういうものを打ち上げる。そして、そこに対してみんなが一丸になって向き合う。みんながまとまるようなものを1つつくっていかないと、先ほど、言われたように、6つも出でると全部、どうなんだろうということになってしまう。

私も道の駅へ行かせていただいて「ああ、そうだな」と思ったのが、薪が売っていたんです。薪というのは、最近、薪ストーブ。河南町には温泉がありません。でも、温泉ってつくることができる。私は、村づくりをやったことがありまして、兵庫県の田舎なんですけれども、やまだの里というところなんですけれども。そこで薪を炊いて、お風呂に入ってもらう。薪風呂です。これは、ものすごく効果が高いのではないかなと。水越というところは、お米がおいしいということで、ふるさと納税の返礼品になっていたかと思います。そういつ

たものも地区の人はあまり知らないだろうと思います。そういったものの中には、米がおいしいということはミネラルがたくさんある、水がいいということですね。この水を生かす価値観、美しさ、あるいは良さ、こういったものを生かしながら、どう全体をコントロールしていくのか。そういうまとめ感というのがなかなか来ないなど。薪ストーブといったものから、さらに薪風呂とか、こういったものまで将来的には発信するんだというか、つくるんだ、何かものやってみる。そういう強い訴え方が、本当に必要になってくるのではないかなど。

私が行っている芸大の中でも、いろいろな学科がありますから、そういう方々を連携させることによって新しい魅力がつけれる。今「魅力を活用して」という言い方をしておられますけれども、私は、魅力はつくるものだと思っています。つくっていかないと、まちづくりなんていかない。KPI とか数値目標もいいんですけども、それよりも皆さんのイメージの中にしっかりできるようなものを、共有できるようなものを出していただきたいなと私は思っています。ちょっとばらばら、あちこち飛んでしまいましたけれども、ぜひ、河南町だからできること、あるいは10年先、あるいは50年先に、こんなものやってみたいという、長期的なビジョン、その中の5年後はこれぐらい。今までは、5年計画しかできなかったんですよね。でも、これからはそんなものがなくなるわけですから、10年先ではなくて、50年、20年、もう少し長期の先。子どもたちが大人になったら、これはどうなるんだろうかとか、そういうステップで考えていくものがあるのではないかと思います。

どこのまちづくりを見ている、一般の言葉だけで、どこでも通用する言葉だけでまとめられてしまうと、そのあたりは非常に残念だなと思ってしまいました。

松久会長： 大変具体的なお話、ありがとうございます。まちづくり会議というのは、非常に内容の範囲が広いのですよね。まちをいかに外の世界にアピールしていくかという面も一方ではありますけれども、一方で町民がいかに幸せに生活していけるかという福祉面の意味合いも非常に強いのですよね。だから、両方なんですよね。まちを活性化していかないと町民も活性化しないと言えば、そのとおりです。具体的な話を交えながら、あまり抽象論ばかりしないように、皆さん、議論していただければきっと楽しいと思いますし、可能性が出てくるのではないかと思います。ぜひ、そういうふうをお願いしたいと思います。

山口委員、どうぞ。

山口委員： 資料の9ページに「芸術村づくりの検討」と書いていますが、これは前回計画か何かでどういう議論をされたかということです。われわれの方向は、若い人たちをどう活性化するか、あるいは老人たち、高齢者をどうするかという2

つの側面、会長さんがおっしゃったように。その1つの柱の中で、9ページに「検討」と書いてあるけれども、以前にどの程度検討されたんですか？

事務局： 今のご質問ですけれども、9ページから1枚めくっていただいた10ページをご覧いただければと思います。

松久会長： 資料3ですね。

事務局： 資料3の10ページですね。河南町は芸術大学という非常にユニークな大学が町内にあるので、そことうまく連携して学生さんは河南町に住んで、いろいろなことをしてもらえるようになれば、若い人が増えて活性化するし、芸大としても、地元と連携していろいろなことをやるのはメリットがあるのではないかと、いろいろ議論があったと聞いています。例えば、これまでも、車両のナンバープレートで陸運局ではなく町が出せるものがあるんですけれども、そういった特殊なナンバープレートのデザインを芸大にってもらったり、河南町の町制60周年の記念冊子をつくるだとか、移住・定住の施策を紹介するパンフレット作成に協力してもらおうとか、そういった事業をいろいろやってきました。芸大生も含む若者が生活しやすいように、例えば、22歳までの医療費の助成を今年10月からやってみますとか、そういったことをいろいろやっています。それで芸術村かと言われると、なかなかつらいところがあるのですけれども、芸術大学が河南町の中にあることを生かして、若者になるべく河南町に住んで、いろいろ活動してもらえるためにはどうしたらいいのかというのを、いろいろやっていったらいいのではないかと議論があったと聞いていますし、今、申し上げたようなことに取り組んできたと理解しています。

山口委員： 下宿村みたいな、オープン下宿村。先ほど、10年開発と先生がおっしゃっていたように、ただ単にワンルームに住むのではなくて、皆がその中で交流できて「河南町に住んだら面白いで」というふうなものを、国も合わせて予算化できる可能性はないかなと思います。

松久会長： 佐々木委員、どうぞ。

佐々木委員： 今の山口さんの話で思い出したのですけれども、堺市は芸術家バンクというものがあって、市内に住んでいる音楽家とか芸術家さんを登録しています。市民が必要であるときに、バイオリンの演奏をする人を呼べるという形になっているのです。そういう形が堺市でできているので、河南町でならよりやすいややすいはずなんですね。芸術村づくりとか、芸大との連携というのをよく町は言うのですけれども、実際に町の事業になんらかの形で絡んでもらうということにとどまっていて、本当の意味の芸大がここにあるという、町民の実感がたぶん、ないのです。なので、学生が表現しやすい、学生にとどまらず、先生とかも一流の方なので、表現しやすい場所で、また町民もそれに触れられやすい場所というようなものが、1つ、案かなと思います。

松久会長： あまり芸大に頼ってもらおうと、ちょっとしんどいんですよ。結局は、理事長次第なんですよ。全然協力してないわけではないし、今までも中学の吹奏楽部と芸大の。何か、澤委員が言いたげですね。

澤委員： すみません。こういう『まちづくり解剖図鑑』というのがありまして、山形県の金山町、ここは東京の先生がずっと何十年入り込んできて、町の建物、学校、あらゆるものに関わっているのです。そして、ここに書かれているように、全体として芸術村みたいなまちをつくっています。実際に、事例でやっているところはたくさんあります。そのためには、やっぱり、長いスパンで考えていかないと。そして、最初のときにどういうイメージを描いていくのか。将来、子どもたちが大人になったときのイメージとして、どうするのか。そんなものを、ぜひ、まとめられたら一番いいのではないかと。そのためには、芸大、先生自身としては、関わり方は非常に多く出せると思いますので、私自身もやっていきたいなと思いますので、できる限りでは。

松久会長： 辻井委員、どうぞ。

辻井委員： 私は、全国の郵便局長会も地方創生に取り組んでおります。いろいろな事例も持っています。先ほどの婚活の話でも、婚活も全国的にわれわれもやっておったのです。やっておったというのは、婚活は同じ方ばかり来られるようになってしまうのです。どうしても、半分旅行気分で作られて、別に、最終的に縁結びになりたいという思いではないような方も、結構、作られてしまって、そこがしんどくなってしまう。そんなことが多分にあります。実際、丹後半島のお寺さんには、見学に行かせていただきました。お寺さんも、自分のところのお寺を守るためにということでされておられています。お寺さんは、結局、系列のご住職が面接されるらしいのです。見たら、変な感じで来られている人は絶対に排除されるということで、檀家さんが減っていく中で、いかにして檀家さんを確保できるかということをしてられるのもありました。

教育ですが、島根県の海士町というところがあります。そこは島に高校があるのですが、やっぱり、本州の方へ出ていってしまうのです。出ていってしまうんですけども、それを戻すのは何かといたら、進学率を上げたのです。それがいいかどうか分かりませんが、有名な学校へも行けるように進学率を上げた。そうすると他府県からも、結局、環境がいいので、その高校で勉強がしたいということで、逆に入ってきているという事例も私としては掴んでおります。

あと、先ほど芸大さんのいろいろな話がありましたけれども、『熱海の奇跡』という本も出ています。それで、実際に熱海に見に行きました。そうすると、駅前の商店街は、もう我慢して我慢して我慢して、そのあたりの地主さんは、例えば空きが出てしまうことがありまして、500万人ほどあったのに、200万

人ぐらいに減ってしまったらしいです。それを戻すのに、本来はパチンコ屋さんとかに入ってもらおうと、駅前なので、ものすごく楽なのですけれども、それをずっと我慢されていたらしいです。

何とかということで、若い人たちが来るような民宿のような形のものをして、例えばそこで泊まって、ご飯だけは提供する。干物は近くの商店街の中は、干物屋さんとかが近くにあったりするので、それを買って、あれしてねという。双方に、その1店だけではなくて、結局、そこで買い物して、自分の好きなものを選んできて、チョイスしてくるというものを地域がされていた。先ほど芸大さんがおっしゃっていたように、私はもっともっと、そういう意味で若い人たちに。

今、それとおっしゃるように、屋台村というのがものすごく、今、ブームになっています。そうすると若い人たちがそこで自主的にクリエイティブなことをされると、空き家も一緒にできるのかな。ただ、空き家の怖いところは、火事になってしまうといけませんので、そこだけがものすごく問題になってしまうところがあります。それぞれ自由に貸してあげて、クリエイティブなことをすると、町家をそのまま残してもらってということも考えながらやってもらおうと一石二鳥的に、町家は町家で残りますし、クリエイティブなこともしてもらって人を呼ぶ。人を呼ぶ仕掛けをしなかったら、どんなに素晴らしいことをしていても、ここに来たいという思いを持ってもらわないとそこは話になりません。そのあたりのところを、先ほど、これだけのたくさんの方とおっしゃいましたが、どうしてもここへ来たいという原点がそこにはないと始まりません。どんなに素晴らしいことを策定してもその辺はなりませんので、そのあたりがもう少し議論できたらと思います。以上でございます。

松久会長： ありがとうございます。村元委員、どうぞ。

村元委員： すみません。同じようなことです。6つの目標、課題があるということで、これを見ていただくと、本当に細かくて大変なことです。すぐ半年余りで決まるようなことではないと思います。

この役所の中で、各部署で、今まで検討されていることがたくさんあると思います。教育もあれば、福祉もあれば、子育て、観光のこと、また農業や産業のこと、またインフラ整備になれば道路や下水、水道、また福祉関係になれば老人会の関係、また、地域づくり、企業の促進やら、地域の特色を生かしたものを事業としてされるという。

いろいろな課題があろうと思いますけれども、各部署で考えておられる。しかし、河南町まちづくり戦略の中でテーマとして載せておかなければ、その部署で考えていただいていることが前に進まないということなのです。だから、まちづくりについて検討されます。

今後のことなのですけれども、あちこちにテーマが飛ぶとまとまりが付きにくいと思います。だから、これから数回の中でまちづくり戦略について、今回はこのテーマに絞っていこう、次はこのテーマに絞っていこうというのも1つの方法ではないかと思います。

松久会長： ご意見をありがとうございます。これについて、他の皆さん、これから何回もやるわけですが、ある程度、テーマを絞ってやった方がいいというご意見なのですけれども、いかがでしょうか。松井委員、どうぞ。

松井勝彦委員： 同じような形になるだろうと思うのですが、平均寿命から言っても、河南町はたぶん素晴らしいところではないかと思っています。大阪市内の方も全部入れて、大阪府内に74市区町村がある中で、河南町は第7位という素晴らしい成績がネットで表現されておりました。

松久会長： その7位というのは何ですか。

松井勝彦委員： 大阪府内の74市区町村での平均寿命です。要は長生きしているところということで表現されていました。南河内では、最高はたぶん河内長野だと思うのですが、その次の2番目に位置付けられていたということを見たので、非常にうれしいなと思いました。

その反面、資料3の19ページを見てみると、高齢者の医療費がすごいですね。河南町の予算書を見てもたぶん、かなりの比率で入れられていると思います。

これに対するものの考え方、要は河南町は高齢者にとって楽しいところであるかどうかという判断をしたとき、楽しい場所が河南町には一切ないと言われています。実際、見てもらっても、河南町に喫茶店が何軒ありますか。ほとんどないですね。たぶん3軒ぐらいではないかと思います。そして、高齢者がどこかに集まって遊ぶような場所があるかと言われると何もない。そんなところで、何でここでこれだけ平均寿命が高いのかということになりますけれども、それはやはり全体の雰囲気的なものは河南町は素晴らしいなと思います。

ただ、健康寿命といったときに、この19ページの資料をずっと深く読んでみると、たぶん健康寿命はそんなに良くないのではないかな。要は介護保険とか認知症関係も多いのだらうと思います。そういうものを少なくするためには、それなりにしっかりと高齢者対策を取ってもらわなければいけないのではないかと考えております。ここに「健康教育やスポーツ活動支援の推進」と書いてありますので、それなりに今後の話の中でいろいろな施策が出てくるのだらうと考えております。

あまり他所のことを参考にする気はないのですが、田尻町を見てみると素晴らしい施策を加えていますね。あそこは金銭的に余裕のある市ですから、やむを得ないなと思っています。

高齢者のための遊ぶ施設を充実してもらった方が町のためにもなるのではないかと考えています。よろしくお願ひしたいと思ひます。

松久会長： ありがとうございます。

事務局： 1点だけ。健康寿命の話なのですが、平成28年の古い数字しか出ていないのですけれども、全国平均が、男性が72歳で女性が74歳なので、それと比べると河南町はすごい数字がいいのだなど、感じています。

松久会長： どこと比較するかですね。確かに高齢者の人にとって、レクリエーションの場、人々が集まって楽しめる場が少ないのではないかというご意見を伺いました。ありがとうございます。他にご意見は。浅岡委員、どうぞ。

浅岡委員： 先ほど他の委員さんから出ていましたように、他にない、河南町にしかこれはないというものが1つあれば、町は助かっていくのではないかといいますのも、他の市さんや政令都市にはどうしても負けますので、河南町はこれが一番だという柱になるものが1つあれば。というか、この規模からいったら、1つぐらいしかできないと思ひます。それを皆さんで見いだしていただけたら、それを芯にして対策というか、施策が練られるのかなと。

それとスケジュールを見させていただいたら、計6回。今、大きな柱を立ててもらっているのも6本ですね。ということで、なかなか厳しい時間、スケジュール的にも厳しいと思ひますので、できましたら1つずつでも解消していくために「今日、これについて宿題を出しておくよ」という形で、二ヶ月、一ヶ月ぐらいあるのですかね。その間に1つのテーマを考えてきてもらって、次回に持ち寄っていただいてという形で進めていただけたら、スムーズに決まっていくのではないかと思ひますので、その辺も含めて、お願ひしておきます。

松久会長： 今、浅岡委員の方から、あと2回、3回、4回、5回、6回とあるので、全部のテーマを1個でやるとばらばらになるので、少しずつテーマを決めて話し合った方が有意義な結果が出るのではないかと話がありました。これについていかがでしょうか。

清水委員、どうぞ。

清水委員： すみません。ちょっと今の話と別の話で、資料3の35ページにふるさと納税の金額の目標が4,000万円で、170万円しか集まっていないということで、これは地域で出すふるさと納税の対象品として出ているものがそんなに魅力がないのか、あるいは少ないのかということなのでしょうかね。

松久会長： いかがですか。ふるさと納税について。

事務局： ふるさと納税による地域経済貢献額ですけれども、こちらの数値につきましては寄附を頂いた額で寄附に対して返礼品を出させていただくというところになるので、寄附額がなかなか減少している中でいわゆる返礼品、河南町の中の地域から出す返礼品の、どうしてもお預かりさせていただく金額も減ってくる

というところで減少しているという状況です。

松久会長： この差がこれだけあるということについてはどうお考えですか。

事務局： 町としましては、ふるさと納税を皆さんにさせていただけるように、いろいろな政策をうち出し、例えば今年ですと100品目を目指して、今、八十幾つまで増えてきたのですけれども、そういう形で魅力を「河南町にはこんなものがあるよ」というのはいろいろと出させてもらうようには取り組んではいるのですけれども、いかんせん全体としまして、寄附を頂けるふるさと納税の総額としても減ってきているというのと、スタートのとき、ふるさと納税の返礼品が4割だったものが途中の制度改正で3割になった。新聞とかでいろいろ言われていたかと思えますけれども、そういうこともいろいろありまして、減少傾向にあるという状況でございます。

何とか挽回したいと思っておりますので、またご協力の方をよろしく願いいたします。

松久会長： ふるさと納税の問題を伺いました。

議論がぼんぼんと飛びますので、どうしましょう。次回から事務局の方でぜひ、今回は主にこれについて話しましょう。あるいはこれとこれについて話しましょうという形でやってもらった方がもうちょっと議論が深まるのではないかと思います。それについて、皆さん、いかがですかね。事務局の方としてはいかがですか。

事務局： 1点だけご相談させていただきたいのは、テーマの数を決めないでやると、いつまでたっても議論が終わらない可能性もあるので、どこかで全体像の議論と、今、ご指摘いただいたような個別の議論を合わせてやっていただく必要があるかなと思っています。

というのは、議論が終わらないと当然、新しい計画もできなくて、計画なしで進んでいく期間がどんどん長くなりますので、そこについては進め方を、全体の議論と個別のテーマを並行してやらせていただくような形でどこまでできるかというのを持ち帰らせていただければと思っています。

松久会長： それでよろしいですか。何かご意見がありますか。

山口委員： 絞ってしないと雑談会になってしまいますから、当然だと思います。

この15ページの1つの中に、先ほど松井さんもおっしゃったように地域の交流ステーション。そういう中で、先週、講演会があって立命館大学の先生のお話を伺った。これは生協を中心におやりになっているのですが、こういうことに私の会社が何か参画させてもらおうか、協力できることがないかなと思っていますので、それだけちょっと伝えておきたいと思います。

佐々木委員： 個別で具体的にテーマを絞ってやっていくというのはすごく大賛成なのですが、先ほど澤委員がおっしゃっていた何か強いビジョン。あれもすごく

いいなと思ったので、それを達成するにはどういう方向性でやっていったらいいのか、もし、こういうアイデアがあるとかがあれば。たぶん、それをやっていくとなったとしても、素人ばかりなので、もう澤委員にかなりのご意見のウエートを置くようになるのかなというイメージなのですけれども、どういうイメージを持たれているのか、お聞きしたいです。

澤委員： すみません。なかなか難しいですね。それぞれ、私もむらづくり、まちづくりをいろいろさせていただいて、そういう中では、やはり町の中でどういう可能性があるか。資源というのは、地域の人は見えているものしか見えていないのですね。私たちはそうではなくて、違う視点から入り込んでいって、これだったら、こういうふうにつくっていけば、すごくいい資源になるなど。そういう可能性のあるものを出していかないと、私もこれがいいとはなかなか言えないですね。

人づくりの中で1つ、先ほど井上さんが工作で子どもたちに教えたり、いろいろしているという。お年寄りなものすごく知恵袋です。そういう知恵袋のリストみたいなものをつくって、お年寄りが働く。要は病院に行かなくて済む。要は休みを与えれば、人間というのはのんびりとしてしまうのですよね。お年寄りもどんどん働く。

ちょうどアメリカの福祉施策も、納税してもらうためにやっているというもののなのですね。日本の考え方は、私は逆だろうと思っています。先ほどいろいろおっしゃって、みんなが楽しめる場をつくるとか、私はそれはちょっとおかしいのではないかなと。それよりも地域みんなが一緒になって、何かできること。

お年寄りはこういう知恵袋だから、工作の得意な人、得意な人、あるいは農仕事の得意な人とか、何か園芸をさせたら非常に得意な人とか、いろいろな人がたくさんいます。それと福祉の中で弱いといわれている人も、私は芸術的な立場からいうともものすごくセンスがいいですね。そういう子どもたちのものすごく得意な部分とか、そういうものをリストにしていって、町のリストと。そして、その中でみんなが交流し合えるときに、例えば車がうまい、運転できる。暇があつて、車で行く。そうすると足をやってもらえとか、それでもいいと思います。そういう町のコミュニケーション、全体が動くような仕掛けというのできるのではないかなと思います。それは河南町のこれぐらいの大きさは非常にいい形になるのではないかな。バスがあつたり、いろいろしますので、そういうものも将来的に。

例えばこれからロボットの時代になってきますから、ロボットになったら、ロボットが動かすバス、あるいは馬車でもいいかもしれないし、ロボットが動かす。そういう将来の夢みたいなものを大きくつくっていくのが一番いいので

はないかな。そういう夢を語るような場が欲しいなど。1度、そういうものがある、そして、次の個別のものに入って行く。

それも、私は他から来ているので、実際のところ、河南町のどこがいいのか、悪いのかがなかなか分からないのですけれども。たまたま、私の出身の村といえますか、私の親元があるところは、実は「かわなみ」というのです。河南町の河南と書きます。中学も河南（かなん）中学という。そういったところから非常に縁があるなど思いながら、ちょっといろいろ考えてみたいなどという思いはあります。具体的にどうのこうのというのは、なかなかちょっと言えないなど。

松久会長： ありがとうございます。意見が出尽くしたわけではございません。まだまだあると思いますけれども、時間がそろそろ参りましたね。どうぞ。

荻野委員： 向かって右肩優位で、左肩が弱いので一言。会長が締めに入られましたので、もうご意見を出せなくなりますので。2つ申し上げておきたいと思います。

1つは、これは感想であり、意見になるわけですが、先ほどからの話を伺っていますと、澤委員のおっしゃっている、みんなが共有できるビジョンづくりをまずしっかり打ち立てよと。それをできるだけ長期ビジョンの中で、差し当たって5年間で実施したらいいものという意味で、より抽象的なものをつくった上で具象のレベルに展開するというお話が、非常に私もそういう気持ちでございまして。浅岡委員の河南町にこれしかないというものと見つけたらどうかというご意見とも共通する。これがビジョンづくりですね。戦略としては、もちろん具体化しないとイケません。これが1点でございまして。今後のこのまちづくりプランを考えていく場合の、私どもとして考えたらどうか。各委員さんもお願ひしたいと。

2つ目は、このまちづくり会議そのものに関するPRといえますか、広報ですね。それが町民、市民に向けてどうされているのかということもちょっと伺っておきたいと思います。

事務局： このまちづくり会議の広報は、当然、広報の紙面で開催したもの、あとはホームページの方で、今回、会議資料が5つ、資料5までございましたが、こちらの方のオープン化。それと、あとちょっと時間はかかりますが会議録、いわゆる会議をうちの方で要約等をさせていただいて、その分を出させていただく。その方につきましては、ホームページの公開等も含めまして、うちの方でさせていただく用意はさせてもらっています。以上です。

荻野委員： 今、その提案は分かりました。では、希望を申し上げますけれども、よく世論でやる、政府もやりますけれども、パブリックオピニオンですね。つまり町民一般から意見を聞くという体制ですね。これを私はできたら希望したいです。一番、今後このプランに生かしていくのは町民の関心があるかどうかという

ことですね。関心を向けるためには、町民が具体的に参加する場があるということが大事です。私ども3委員がたまたま一般公募委員で手を挙げましたけれども、挙げなくても知恵のある人がたくさん、先ほどおっしゃったお年寄りでもすごく人生体験豊かですから、そういう方も含めて。たくさんはないと思いますが、2人、3人でも、このまちづくり会議に関して、この委員会だけに委ねないで「私はこういう意見を持っています」「これは進めてほしい」とか、そういうオピニオン、意見を広報で求めてほしいと思います。河南町広報紙で「来年、令和2年8月締めですけれども、それまでに何でも意見があれば、おっしゃってください」という声をまず拾い上げておくということが必要だと思います。

でない、町の人にしたら、誰がどう進めて、いつの間にか決まっていると。関係ないねということが一番、このプランが生きてくるかどうかのネックを占めるぐらい大事な問題でございます。以上です。

事務局： ただ今、頂いた町の方からのご意見をということは、事務局でもまさに、ここでご議論いただくのと並行して、どこかでタウンミーティングのようなものを作って、住民の方からも議論いただいている内容について、ご意見を頂く場をちょっと設けたいと内々に考えています。またちょっと検討が具体化してきた段階で「こういう方向でやります」というのをご紹介させていただければと思います。

荻野委員： あまり期待されない方がいいですよ。ほとんどの町民は、そこは忙しいとなりますから、2人でも3人でもお集まりいただいたらいいというぐらいの規模感でおやりいただく必要がありますよ、とも申し上げます。

松久会長： ありがとうございます。住民参加の時代ですから、よく分かっています。

もう議論は尽きないのですけれども、そろそろ時間が経過していますので、質疑を終了したいと思います。最後、何かこれだけ言っておきたいということはありませんか。よろしいですか。次回もあります。

それでは、事務局の方で、今日の皆さんのご意見をまとめていただいて、次回のテーマを絞るのと全体を考えるのとそういう2段方式をうまくまとめた形でつくっていただいた方がいいかなと思います。

後で追加意見等がもしございましたら、これは事務局の方なのですけれども、事務局宛てにメールか郵送で意見を送ってくださいということです。ちょっとこの場では、今日、言い尽くせなかったという方がおられましたら、メールか郵送で事務局の方へ送ってください。事務局においては、今後の検討の方向性に基づき、本日、出された意見および追加で出された意見を踏まえて、新しいまちづくりの計画について、大まかな骨子の作成をしてもらい、次回の会議で審議を頂きたいと思います。

その他の案件について、事務局から何かありますでしょうか。

事務局： 今日では会議をありがとうございました。資料5にあった次回のスケジュールで、年が明けまして2月ぐらいの開催というところで、うちの方は予定させていただいております。

ただ、今回もさせていただいたのですが、委員の皆さまにできる限りご出席をお願いしたいということで、また日程の調整をさせていただこうと思っております。そうしまして、また会長ともご相談させていただきまして、決定通知をさせていただきたいと思っておりますので、日程調整の際にはよろしくお願いたします。

事務局： 追加なのですが、先ほど何名かの方から河南町のオンリーワンはこれだというご意見があったと思います。次回の会合でいきなり、それぞれの方がそれをおっしゃって議論を始めていただくと、事務局としても整理がつかないところがありますので、できれば、先ほどちょっと会長の方からもありましたけれども、年内ぐらいに、それぞれ河南町にはこれがあるのではないかと、もしイメージをお持ちの方、事務局に案を出していただくと「こういう意見が出ましたよ」というのを例えば次回にご紹介させていただくとか、そういった形の方がたぶん議論が進みやすいのではないかと思います。ちょっとご負担をお掛けすることになって申し訳ないのですが、ご協力を頂ければと思いますので、よろしくお願いたします。

松久会長： 事務局の方から、何かオンリーワンに関してアイデアがある方は直接、事務局の方に出していただきたいとのことです。

事務局： 作業の期間を踏まえ、できれば年内ぐらいでお願いします。

松久会長： できれば年内以内ということですか。

それでは、本日の会議はこれで終了します。ありがとうございました。お疲れ様でした。